

人間学を学ぶ月刊誌

chichi

2015 February

2

昭和51年8月16日第三種郵便物認可  
平成27年1月1日発行  
毎月1回1日発行 通巻第475号

# 致知

大感謝祭  
開催中!  
チラシ在中

北方謙三 & 福島智



特集

# 未来をひらく

長岡三重子 & 守田満 / 平光雄 & 菊池省三

# 特別ジョイント講演会開催のお知らせ

**講師** 田中真澄氏 社会教育家

平光雄氏 小学校教諭

**演題** 志を伝承する

◎当日は両氏のご講演に加え  
トークセッションも予定しております。



**日時** 2月21日(土)  
開演:13時~16時  
◎受付開始は12時

**場所** 京王プラザホテル  
本館44階「ハーモニー」

**会費** 3,500円(税込)

◎2月度致知読者の集い(本鶏本部例会)はこのイベントに振り替えとなります。

◎詳しくは75ページをご覧ください。

## 連載

- 私の座右銘  
**野並直文** 崎陽軒社長 — 70  
白雲自ずから去来す
- 第一線で活躍する女性  
**星子文** 自然と未来社長 — 72  
迷った時はお天道様が喜ぶ道を選び、環境ビジネスの未来をひらく
- 二十代をどう生きるか ⑤  
**堀義人** グロービス経営大学院学長 — 76  
自分の可能性を信じよ
- 生涯現役  
**篠原儀治** 篠原風鈴本舗会長 — 92  
伝統が奏でる江戸風鈴の音
- 人生を照らす言葉 ⑦  
**鈴木秀子** 国際コミュニケーション学会名誉会長 — 96  
宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
- 生命のメッセージ ⑦  
**山口香** 筑波大学大学院准教授 — 102  
柔の道で真の人間をつくる
- 村上和雄** 筑波大学名誉教授
- 禅語に学ぶ ⑧  
**横田南嶺** 円覚寺管長 — 108  
日出でて乾坤輝く
- 『論語』と二宮尊徳 ⑧  
**岩越豊雄** 寺子屋石塾主宰 — 110  
世のため人のために生きるということ
- 意見・判断 ④⑩  
**阿比留溜比** 産経新聞社政治部編集委員 — 112  
歴史問題は匍匐前進で行け!

- 日本の教育を取り戻す ②  
**占部賢志** 中村学園大学教授 — 116  
コミュニケーション能力は万能か
- 歴史の教訓  
**渡部昇一** 上智大学名誉教授 — 120  
安倍政権にとって、まさに正念場の一年である
- 大自然と体心  
**伊藤和磨** パーソナル・トレーナー — 126  
顎を引けば人生が変わる
- 千支九星学  
**井上象英** — 132
- 小説・荻生徂徠 ⑧  
**童門冬二** 作家 — 144
- 致知随想 — 85  
**森昭** すべては自分の責任
- 服部徹** 意識の力
- 大塚耕輝** 為せば成る
- 山口育子** 患者と医療者が協働する社会を目指して
- 出縄雅之** 障がい者に働く誇りと喜びを
- 松並孝雄** 新年の千支に思う
- 「致知と私」読者から寄せられたお手紙 — 68  
致知出版社ニュース — 75  
こまく — 131
- 読者プレゼント — 137  
BOOKS「書評」 — 138
- 書店員さんたちの創意工夫 — 141  
まんがへうちの社長の器学〜**神保あつし** — 143
- 読者の集い「講師・石川真理子」 — 150  
本鶏クラブ通信 — 152

# 迷った時は お天道様が喜ぶ道を選 び、環境ビジネスの 未来をひらく



星子文 自然と未来社長

ほしこ・あや——昭和50年熊本県生まれ。中九州短期大学卒業後、勤務していた運送会社でバイオディーゼル燃料と出会い、平成22年自然と未来を設立。25年第22回くまもと環境賞でくまもと循環型社会賞、同年12月には環境省の地球温暖化防止活動環境大臣賞を相次ぎ受賞。いま環境ビジネス界で最も注目される女性経営者である。

❀ 使用済みてんぷら油で重機やパッカー車が走る！

——星子さんは起業から僅か三年で平成二十五年度の環境大臣賞を受賞、一躍脚光を浴びましたね。

星子 当社では食用廃油を回収し、バイオディーゼル燃料（以下BDF）に精製する事業を行っています。同様の取り組みは全国で見られますが、従来は劣化しやすく、またエンジントラブルも頻繁にありました。そこで当社は、メーカーとの共同研究の下、BDF専用の減圧蒸留器を開発。従来とは次元の違い、不純物が極限まで少ないBDFの精製に成功しました。それも評価されての受賞でしたが、他の受賞者の顔ぶれは日本の錚々たる一流企業ばかりでした。当社は地方の決して大きな企業ではないけれども、循環型の社会を目指し、取り組んでおります。そろそろ社会全体がそちらの方向へシフトしなければならぬと気づき始めたからこそ、受賞対象になったんじゃないかと感じています。

——この事業を始めた経緯は？

星子 以前、運送会社に勤めていたのですが、お客様が車でお帰るのを見送った際、ぶーんとてんぷら油の匂いがしたんです。何だろうと思って後日お聞きしてみたら、家庭用の廃油をリサイクルした燃料を使っていると。しかも重機やパッカー車もその燃料で走っているとおっしゃるのです。

私はその会社からBDFを少し分けていただいて、知り合いのバイオ系の大学教授の下に持ち込みました。「先生、すごい話を聞いた」と興奮気味に話すと、「五十年以上前からある技術だけど、なかなか社会に広まらないんだよ」とおっしゃったのでびっくりしたのを覚えています。BDFは捨てるしかない廃油を再利用しているだけでなく、CO<sub>2</sub>はゼロカウント、硫黄化合物も含まないから、酸性雨の原因にもならない。なんて素晴らしいんだらうと思いました。

そこで勤めていた会社をお願いをして、BDFの事業部門をつかって任せていただいたのがスタートです。ところが、三年ほど取り組んだ後、その会社が倒産。せっかく技術が確立してきたのにもつたいない。私は知り合いの企業様を「この事業をやりませんか？」と一軒一軒回りました。ところが、

## 第一線で活躍する女性

全部断られました。理由は「儲からないでしょう。儲からなければ商売じゃない」って。でも私にはその感覚がよく分からなかったんですよね。絶対にやったほうがいいと思っただけです。

——そこまでの思い入れがあった星子 たぶんそこには、私の生い立ちが関係していると思います。

私は骨が折れやすいという難病を持って生まれてきました。小さい頃は両親が共働きだったこともあり、療養を兼ねて父方の祖父の下によく預けられました。

そこは熊本でも自然の多い場所で、夏の夜は満天の星空、庭に螢が飛び交い、お月様の光に照らされた畑のキャベツがエメラルドグリーン宝石のように美しかった。しかし、時が経つにつれて道路が舗装されたり、上下水道処理場ができたとして、暮らしは便利になるのですが、私の大好きな生き物、メダカやアメンボたち、そして自然が姿を消していききました。

みんなが喜ぶはずが……  
思いがけない抵抗の中で

星子 そして成人した後、北極の氷が融けてシロクマが溺れてい

る映像を見た時、私たち人間がやっていることなんだと、すっごく衝撃を受けたんです。地球は一体この先どうなってしまうんだろうと、漠然とした不安を覚えました。でもきつと政治家の先生や大企業の社長さんなど、いつか誰かが何とかしてくれるだろうって思っていました。

——しかし、変わらなかった。星子 はい。このBDFは、ゴミとして処理される廃油を提供して、エコ燃料として再利用するわけですから、誰もが簡単に環境問題に取り組むことができます。

私は子供の頃から両親に「判断に迷ったら、その行為が美しいかどうか、そしてお天道様の喜ぶほうを選びなさい」と育てられました。儲かる、儲からないじゃないんです。誰もやらないなら、自分でやろうと思ひ、平成二十一年、三十三歳の時に起業しました。

私は本当に人のご縁に恵まれていて、同級生には水道屋さんがいたり左官屋さんがいたりして、みんなが手伝いに来てくれました。「新品を買うと高いから、使えるところは廃材を使おう」と考えてく

れて、本当に最低限の借り入れで始めることができました。

ただ……、私、簡単にできると思っていたんですよね。廃油なんてどこにでもあるし、みんな処分困っているわけだから、うちがそれを回収して、エネルギーに変える。しかも環境にもいいんだから、みんなが喜ぶと思っただけです。ところが、始めてみたら大変でした。何が大変って、思いもよらない抵抗が……。

——え、抵抗？  
星子 廃油は産業廃棄物を取り扱う業者が処理料をもらって回収し、それをまた転売するという、二重の利益構造になっていました。要するに既得権益を得ていた業界に私のような新参者がエコ活動を旗印に入ってきたので、面白くないですよ。せつかく回収した廃油のドラム缶がいつの間にかなくなっていたり、夜一人で事務所にいる時に怖い電話がかかってきたり。

また、ある企業から「話がしたい」という電話をいただいたので、私はつきりお取り引きの話だと思っただけで、「やったあ」と、たくさんの資料を持って訪問したら、十時間近く帰っていただけなんです。

した。「手を引け」とか散々言われましたが、借入金もあるし友達も手伝ってくれて、こんな私と一緒にやろうという社員もいる。やめられるわけがないでしょう。夕方、日も暮れてきた頃、「すみません、やめられません。社員が心配しているの帰ります」と言っただけで帰りました。

——その後も同じような抵抗は続いたのですか？  
星子 はい。毎日がそれとの闘いで、いろいろ考えて眠れない日が続きました。自分は経営者の器じゃないんじゃないか。事業をやったのは間違いだったのかもしれない。いや、負けちゃいけない、経営者なんだから強くなくちゃ。

そんな日々が一年近く続いた頃、友人に誘われて福岡まで「降りてゆく生き方」という映画を見に行きました。この映画を見たら、もう、涙が止まらなくなりました。——どんな映画だったのですか？  
星子 自主上映だけの映画で、たくさんのメッセージが込められている作品なので一言でお伝えするのは難しいのですが、お金のために人も自分自身も騙して生きてきた主人公が、人の優しさや温かき、

## 第一線で活躍する女性

命の大切さに触れて、生き方が変わっていくのです。

それを見て、私はもともとそういう部分を大切にして生きてきたし、だからこの事業をやりたいと思っただけに、経営者だから強くなきゃ、闘わなくちゃと、必死で違う自分をつくらうとしていたことに気づいたんですね。

私らしく生きようと思いました。それでダメならそれまで。お天道様が喜んでくれる事業なら、私らしくやっても、きつとうまくやれるはずだと思いました。

この事業は日本を変え、世界を変えるかもしれない

星子 その後、映画に誘ってくださった方と私が主催者となり、熊本で千人の会場を借りてこの映画の自主上映を開催しました。この時は、致知出版社さんでお馴染みの北川八郎さんにもジョイント講演をしていただきましたが、この後から私を取り巻く環境が劇的に変化していききました。

まず、この自主上映を手伝ってくださった方、足を運んでいただいた方がうちの事業に賛同し応援して下さるようになりました。

また、その時のご縁で友人になった方のご紹介で、熊本で広く産廃事業をされている理事長にお会いする機会をいただいたんです。見た目がすごく怖そうで、ニコリともしない。「ああ、来るんじゃないか」と思いましたが、せっかく機会をいただいたんだし、弊社の事業内容とこの事業に懸ける思いの丈をお伝えしたところ、「分かった。協力する」と。そうしたら、その後ピタッと他の産廃業者の抵抗も止まったんです。

しかし、それまでよく持ち堪えましたね。支えは何でしたか。星子 やっぱり人ですよ。夜、怖い電話がじゃんじゃん入る中、「お弁当持ってきたよ」と事務所を訪ねてきてくれる友人もいたりして、その人たちの目が私を守ってくれたと思います。警察に届け出ても「何かあったら連絡してください」と言われるだけ。何かあってからじゃ遅いんだけどなあと思いました(笑)。

それと、やっぱりうちのBDFを使いたいとおっしゃってくださいのお客様の存在です。いま、遠くは水俣から車で一時間半以上も掛けて買いに来てくだ

さるお客様もいらっしやいます。そこは無肥料無農薬でお茶をつくらっている桜野園というところですが、実は最初はお断りにまいりました。ありがたいお話だけれども、いまはまだ毎回そこまでお届けする企業体力がありません、と。

すると社長さんが茶畑を見せてくださって「生きていってしょう、イキイキしているでしよう」って。茶葉を摘む時、CO<sub>2</sub>の排気ガスを振り掛けたくない。できるだけこの子たち(茶葉)が喜ぶように自然の燃料を使いたい。もう私、心打たれちゃって「私がつてきます！」って(笑)。

結局、桜野園さんのほうが熊本市内に納品がある時、当社に立ち寄ってくださることになったのですが、こういうお客様に支えられているからこそ、絶対にやめられないなって思うんですよ。

これからのビジョンをお聞かせください。星子 経営的には苦しい状況が続いておりますが、このたび熊本県内の企業様や経営者様から出資のお話をいただきました。弊社の取り組みは熊本を変え、日本を変え、世界を変える可能性があるかもしれ

れない。ただ、利益を出すことは苦手なようだから(笑)、志同じくする者同士で支えていこうと。そうすることで、熊本の宝になるかもしれない。そういうありがたいお話もいただき、流れも生まれてきました。ですから、皆様の応援に応えられますよう、いま以上にBDFの啓発活動に取り組んでまいります。

また、廃油を精製する段階で生まれるグリセリンから界面活性剤を全く含まないエコな石鹼がつくれますから、今後はそちらにも力を注いでいく予定です。

環境問題を解決し、日本の未来をひらく流れに繋がっていくかもしれませんね。

星子 いま、日本でBDFなどに再利用される廃油量は、全体の〇・五割にも達しません。これが十割になっただけで、確実に日本は変わると思っています。

一度役目を終えた廃油から、また新しいエネルギーをつくる。そこには絶対に人の手が必要ですから、雇用も生まれます。全国各地域でそのような循環型社会をつくるために、当社が成功事例になれるよう頑張りたいと思います。